

図 II-1 主要医学誌における各国の論文数(2003-2007).

他先進国に比較し日本の臨床医学論文数は少ない。

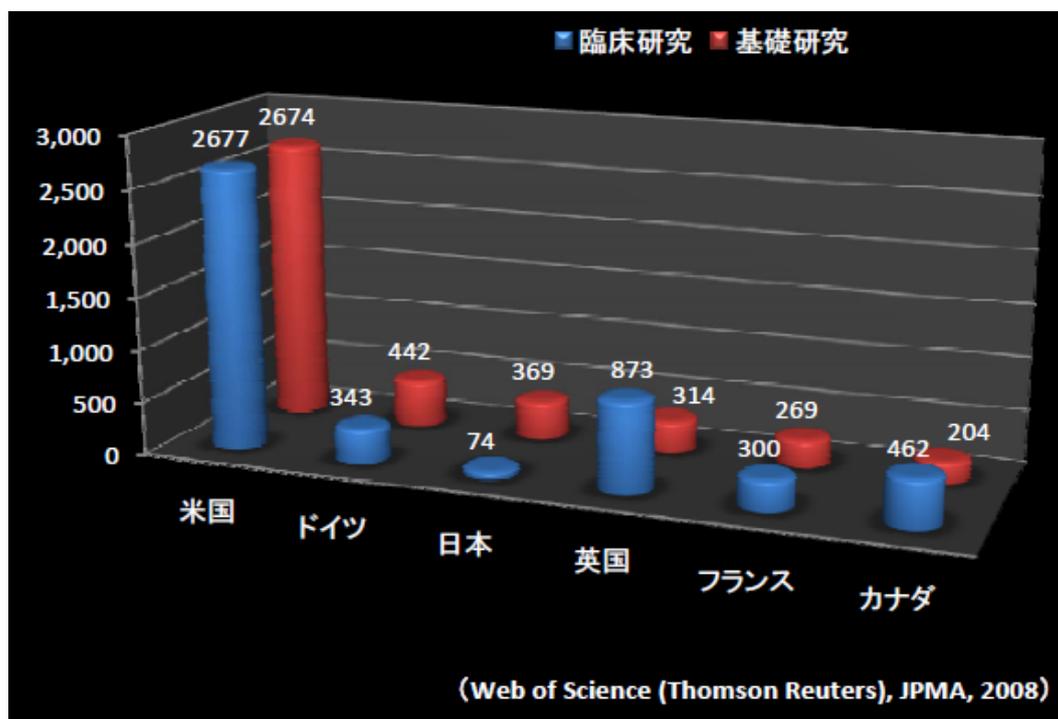
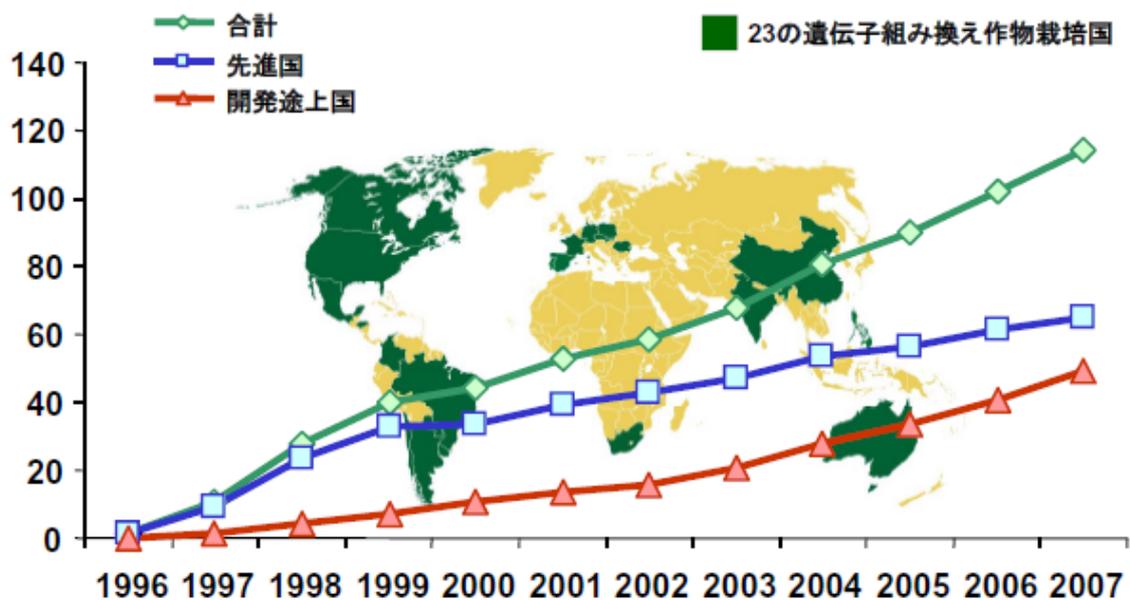


図 II-2 世界の遺伝子組み換え作物栽培面積の推移(単位:百万 ha).



2007年の遺伝子組み換え栽培面積は、前年比12%増、1,230万ha (3,000万エーカー)増加

Source: Clive James, 2007.

環境問題の解決のために食料資源との競合を避けながら、石油に代わるエネルギー源、工業原料としてのバイオマスの利活用に向けた研究開発が必要

- 持続的成長を遂げながら、地球温暖化問題に対応するため、京都議定書で掲げられた温室効果ガス削減目標を達成することは、我が国のみならず、人類にとっての最重要課題である。
- そのためには、バイオマスを石油に代わる原料として燃料・工業製品に利用することが非常に有効な手段となる。
- しかし、一方でバイオマスの利用は、世界的にみると食料資源との競合問題を引き起こす可能性が懸念されている。
- したがって、我が国においては、食料資源との競合を避けながら、バイオマス資源の確保、利活用を促進する技術開発、技術を普及させるための制度や基盤の整備に総力を挙げて取り組むことが求められる状況となっている。